

令和二年 推薦入試 学力考査 (国語)

〈答えは解答欄に記入〉

受験番号	
名前	

〔一〕 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。
〔本文にいたるまでのあらすじ〕

思いがけない成り行きで他の教師が敬遠する特殊学級の担任になった若い教師。知的障害を持った子どもに教えることの困難さとその中で少しずつ子どもたちの個性が見えだしてきていた。

ヒサコはからだの弱い子だった。足の関節に十分、力がはいらないのか、歩くとき、風のようにゆらゆらした。ハンカチなどの洗濯物が風でとぶと、笑い声をあげて拾おうとするのだが、ハンカチもヒサコも、風で **A** した。そんなヒサコはかわいかった。

落ちた洗濯物をぼくに届けるかわいい **a** シユミが、あるとき、小さな事件をおこし、その小さな事件がぼくの中に大きなものをねじりこんだ。

洗濯物を追っついていてヒサコがころんだ。校舎のそばの **b** ミゾに足をつっこみ、コンクリートの角で顔をうったのだ。内出血をおこして顔がはれた。

「よしよし」

泣いているヒサコを抱いて、保健室に連れて行った。応急 **c** ショチをしてもらってとりあえずベッドで休ませる。給食の時間がちかかったので、子どもたちに食事をさせて、それからヒサコを病院につれていくつもりだった。

給食をすませ、医者に電話をかけ、ヒサコを連れ出すつもりで保健室にいった。マサコがいる。

「あう、うーうー」

ヒサコとしゃべっている。

しゃべっている——どうして、とっさにそう思ったのだろうか。ふたりとも言語障害を伴っていて、普通の意味でいう会話は成り立たないのだ。

B、ふたりはしゃべっている。 **i** 泣くようにマサコがしゃべる。ため息をつくようにヒサコがしゃべる。マサコが唸る。ヒサコが小さく叫ぶ。ふたりは呻くようにしてしゃべっている。 **ii** 声が、熱く、そして優しく抱き合っている。

iii ぼくは呆然として、ふたりを眺めた。 (1)

ふたりの会話を無理に文字にすれば「あー」とか「うー」とか「おー」とか書くより仕方がない。 (2)

マサコはヒサコを見舞いにきたのだ。

「痛いかな」

「少し」

「病院にいくのか」

「うん」

多分、そういうことを言っているのだろう。そういうふうに言葉で言ってしまうのは、たいして感情はこもらない。 (3)

この子どもたちは、まったく別の世界を持っている。

ぼくはふたりの **C** に打ちのめされていた。

ぼくは何だったのだろうか。 **iv** この子たちを白い壁のように見ていたぼくは、いったい何だったのだ。

(灰谷健次郎『声』による)

〈注〉○特殊学級Ⅱ特別学級

問一 傍線部 a、b、c のカタカナを漢字で書きなさい

問二 本文中の **A** にあてはまる最も適切なことばを、次のア～エまでのの中から選んで、かな符号で答えなさい。

ア ぶらぶら イ てくてく ウ ひらひら エ ばさばさ

問三 本文中の **B** にあてはまる最も適切なことばを、次のア～エまでのの中から選んで、かな符号で答えなさい。

ア しかし イ だから ウ そのうえ エ つまり

問四 傍線部Ⅰ「泣くようにくしゃべる」、傍線部Ⅱ「声が、く抱き合っている」とあるが、それぞれに用いられている表現技法として最も適当なものを、次のア～オまでの中から一つずつ選んで、かな符号で答えなさい。

ア 擬人法 イ 倒置法 ウ 直喩法 エ 隠喩法 オ 反復法

問五 傍線部Ⅲ「ぼくは呆然として」とあるが、ここから読み取れる「ぼく」の気持ちとして、最も適当なものを次のア～エまでの中から選んで、かな符号で答えなさい。

ア 嘆き イ 怒り ウ 恐れ エ 驚き

問六 次の一文が本文から抜いてある。この一文が入る最も適当な箇所を、次のア～ウまでの中から選んで、かな符号で答えなさい。
それなのになんという感情のこもった声だろう。

ア 本文中の(1) イ 本文中の(2) ウ 本文中の(3)

問七 本文中の[C]にあてはまる最も適当なことを、次のア～エまでの中から選んで、かな符号で答えなさい。

ア 言葉 イ 会話 ウ 視線 エ 思考

問八 傍線部Ⅳ「この子たちを白い壁のように見ていた」とあるが、ここから読み取れる、子どもたちに対して「ぼく」が抱いていた印象を説明したものととして、最も適当なものを次のア～エまでの中から選んで、かな符号で答えなさい。

ア 体が弱く色白で、いつも元氣のない子供たち。

イ 何をしてでも無反応で、感情を持たない子供たち。

ウ 大人は干渉できないほど、友達同士の結束の強い子供たち。

エ いつも反抗的で、言うことを何も聞かない子どもたち。

問九 本文で中心に描かれていることとして、最も適当なものを、次のア～エまでの中から選んで、かな符号で答えなさい。

ア 障害を持つ子どもたちが内に秘めた豊かな世界への気づき。

イ 特殊学級を受け持った若手教師の奮闘。

ウ 厳しくも優しい教育による子どもたちの成長。

エ 障害に対する世間の意見。

② 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

下品でいけない、婦人は避けるべきだ、^aシンシは使わないほうがいい……。①明治生まれの国語学者らが、たびたびこの言葉に、苦言を呈している。文の結びの「です」である。現在、品を損なうと感じる人はいないだろう。

もともと江戸の歓楽の場などで使われていた。それが流行し、定着したというのが有力な説らしい。言葉の変化の激しさを物語る^②来歴^②だろう。

国文学者の池田弥三郎は昭和三十年代の^③随筆^③で、「です」に^④A^④をひそめる年配者がなっていると述べつつ、奇異な用法も〈大衆が採用して使ってしまったえば…勝てば^⑤官軍^⑤〉と書いた。

その「です」は近ごろ官軍の^bオモムキ^bを濃くしている。「ます」とともに、官公庁の文書の文体に望ましいと思う人が、「だ・である」派に大差をつけた。先日発表された文化庁の国語に関する^cヨロシ調査^cだ。

^⑥言葉の変化をいつも伝える調査は今年も興味深い。「砂をかむよう」は本来の「^⑦無〇〇燥^⑦でつまらない」でなく、「悔しくてたまらない」と解する人のほうが多い。「失望し、ぼんやりする」はずの「^{ぶぜん}慥然^{ぶぜん}」も「腹を立てている」と異なる意味に取る人が多数派だ。

受験生の^dヒアイ^dを歌う高石ともやさんの「受験生ブルース」が思い浮かぶ。〈砂をかむよなあじけない僕の話の話を聞いとくれ。〉これも正しく伝わらなくなっているのか。言葉の^eテンペン^eを学びつつ、今年も^⑧敗軍^⑧の言葉や用法が気にかかる。

(中日新聞発行 2019年『中日春秋』より)

問一 傍線部a～eのカタカナを漢字に改めなさい。

問二 傍線部①で「明治生まれの国語学者らが…苦言を呈している。」理由を、文中の言葉を使い、「くいたから。」に続く形で答えなさい。

問三 傍線部②の漢字の読みを、ひらがなで答えなさい。

問四 傍線部③は、文学の一つのジャンルである。日本の三大随筆は「枕草子」「方丈記」と、あと一つ何か。漢字で答えなさい。

問五 傍線部④は「不快な気持ちや心配の念を表情に出す。」という意味の慣用句である。□A□に入る、体の一部を表す漢字一字を答えなさい。

問六 傍線部⑤「官軍」の対義語を漢字で答えなさい。

問七 筆者は文中で⑥「言葉の変化」の仕方の一つを紹介している。「用法」「採用」「定着」という言葉を使って二十五字以内で答えなさい。(句読点は不要)

問八 傍線部⑦のマル二つに漢字を入れて四字熟語を完成しなさい。

問九 傍線部⑧「敗軍の言葉や用法」の「敗軍」の説明として最も適切な十三字の言葉を文中から抜き出しなさい。